



請願第7号

2025年4月4日

## 鶴川第二小学校存続を求める請願

町田市教育委員会教育長 様

住 所  
連絡先  
氏 名

### (請願の要旨)

鶴川第二小学校の存続を求める

### (請願の理由)

2021年5月において、新たな学校づくりでは、2026年に鶴川第三小学校を分割統合し、学校内に7ha建設を行い、鶴川東小学校とするということが発表されました。

鶴川第二小学校は、坂の途中の傾斜地に建てられており、また、住宅地に位置しています。大規模な建設は地域住民にとっても大きな問題です。また、2024年1月、建設工事に問題があると、擁壁工事が加わり、さらに、7haではなく、4年間現在の鶴川第三小学校に移動通学することが急遽発表されました。その際の説明会の中の意見でも、鶴川第二小学校の建て替えは現実的ではなく、移動通学についても山坂のある地域で児童が遠くの通学をすることは困難だと保護者からも出ています。そして、この変更により、統合は、2029年となりました。事実上、第2期の計画と同じスケジュール期間に当たります。

鶴川第二小学校は、現在、普通学級17クラスと支援級で構成されています。2021年発表の教育委員会の資料では、2040年には24クラスになると、2030年にいったんおちこみ復調していくことが出されています。さらに、現在進行している鶴川駅開発により、転入等が予測されます。町田市教育委員会の児童推計には出生率が加味されており、大きな転入は加味されていないと聞いています。そうであるならば本当にこの鶴川の計画は大丈夫なのでしょう。社会的課題でもある不登校、教員不足が大規模になることで解消されるとは思えません。今の鶴川第二小学校のこれまでの文化を壊してまで、新しい学校にする必要があるのでしょうか。

また、当初の計画、鶴川第二小学校と鶴川第三小学校の統合ではなく、鶴川第四小学校と鶴川第三小学校の統合になってきたなかで、鶴川第二小学校を廃校にする必要があるのでしょうか。現実的には、学区変更のみです。

今の計画では、学校のシンボリックな木々とビオトープ、ジャンボ滑り台がなくなってしまいます。木々とビオトープに関しては、一度崩してしまった生態系を元に戻すことは不可能であり、同様のものを作ればいいという軽いものではありません。ジャンボ滑り台は、入学したての子どもたちの心を開いてくれるものであり、卒業生にとっても鶴川二小を訪れると迎え入れてくれる心のよりどころでもあります。変わらぬ環境を残すことの大切さを今一度お考えいただきたいです。

そして、学区外の地域である鶴川第三小学校位置に通学するというのは、親にとってはとても心配なことです。学童生活も長期休みは近くではなく、今でも危険個所である交差点を渡り、通学する。行事も二小

学区から、三小に向かう。さまざま、地域から離れた生活をするようになります。

そして、新しい学校に建て替えるよりも、今ある校舎の維持管理、メンテナンスを施すということが、児童の学校生活が保たれるものと思います。避難施設もない地域でもあり、4 年間の建設工事はとてもリスクが大きいはずです。また昨今の建設工事の遅延もあり、本当に 3 年後なのか、また、4 年で終わるのか未確定の事業になります。

そのことから、鶴川第二小学校の存続を求めます。